

平成24年度  
図書館運営の点検及び評価

平成25年4月  
苫小牧市立中央図書館

## 1 はじめに

中央図書館では、生涯学習社会における中核的な社会教育施設として、市民の学習活動を支援するため、図書資料の収集・活用と機関紙やインターネットによる情報提供を行うことにより図書館機能の充実を図り、また各種行事を実施するとともに、学校図書館との連携強化や関係団体と協働した活動を推進し利用者の拡大を図るため、苫小牧市立中央図書館運営方針（平成24年度）を策定している。

この自己点検報告書は、その実施内容について自己点検の分析を行い評価結果をまとめたものである。

この自己点検及び評価結果に基づき、さらなる業務の改善及び効率化並びに市民サービスの向上に取り組んでいくものとする。

## 2 評価項目

評価項目については、苫小牧市立中央図書館運営方針（平成24年度）に基づき策定した4項目、さらに当館の運営状況等に関する項目も含め下記の7項目に分類し評価した。

- (1) 図書館資料の充実
- (2) 図書館利用者へのサービス向上
- (3) 新たな図書館利用者の開拓
- (4) 効率的な運営
- (5) 適正な職員配置
- (6) 蔵書数及び個人登録、貸出数
- (7) 経費

## 3 評価方法

評価は、自己評価と教育委員評価（1）から（4）を行った。なお、評価は次ページの方法であるが、評価項目（5）から（7）については参考指標として人口15万人以上20万人未満の全国48の図書館の平均値による比較を行った。ただし、評価項目の数に違いがあることから、最終評価は各項目の評価点数合計を項目数で除した平均点数を四捨五入し評価した。

※平均値は「日本の図書館 統計と名簿2012 発行（社）日本図書館協会」を採用し評価を行った。

○評価項目（１）～（４）

評価 ランク	評 価 基 準
5	新たな取り組みにより大きな効果があった。
4	継続的な取り組みであるが、工夫・改善があった。
3	継続的な取り組みで、工夫や改善、新たな取り組みはなかった。
2	継続的な取り組みであるが、現状よりもやや後退した。
1	目標が達成されなかった。又は全く取り組まなかった。

○評価項目（５）～（７）

評価 ランク	評 価 基 準
5	平均を大幅に上回っている。（平均より20%以上）
4	平均より上回っている。（平均より10%以上20%未満）
3	平均値と同程度（平均の±10%未満）。
2	平均値よりも下回っている。（平均より10%以下20%未満）
1	平均値よりも大幅に下回っている。（平均より20%以下）

## 4 評価

### 評価（1）図書館資料の充実

- 目標 ① 一般図書及び参考資料の充実  
② 児童図書の充実  
③ 郷土資料の収集・保存  
④ 視覚障がいサービスの充実

自己点検結果 ①、②については毎年度継続的に取り組んでいる項目で、  
③については地元企業からの寄贈資料及びその他郷土資料のデジタル化を行い貴重な資料の保存を行った。

④については継続的な取り組みであるが、新たにカセットテープ資料のデイジー化※1や郷土資料の音訳、点訳資料の作成を行い視覚障がいサービスの充実化を図った。

#### 評価結果

	評価項目				合計	平均	最終評価
	①	②	③	④			
自己評価	3	3	5	4	15	3.75	4
教育委員評価	3	3	4	4	14	3.5	4

※1 デイジー化とは、デジタル録音図書の国際標準規格のことで、視覚障がい者にとって使いやすいものとなっている。特徴としては、目次から読みたい章や節に任意のページに飛ぶことが可能で、さらに長時間録音ができ、音質の劣化が少ないなどが挙げられる。

## 評価（２） 図書館利用者へのサービス向上

- 目標
- ① レファレンスサービスの充実と利用しやすい図書館づくり
  - ② 全文検索システムの充実及び図書予約システムの活用促進
  - ③ 読書相談や資料情報提供活動の充実
  - ④ 子ども読書活動の啓発、推進
  - ⑤ 身障者、高齢者へのサービス充実
  - ⑥ 各種図書館及び関係機関との連携と相互貸借事業の充実
  - ⑦ インターネット等の先端メディアを活用した情報提供
  - ⑧ 図書館ボランティアの育成と活動の促進
  - ⑨ 図書館展示コーナーを活用した情報提供

自己点検結果 ①のレファレンスサービスの充実については継続的な取り組みであったが、館内に新たに新書版コーナーを設置し、さらに紙芝居コーナーの表示を工夫するなど、わかりやすい館内表示を行った。

②についてはシステム更新によって予約図書メールの送信が可能となり、さらに利用者検索機のレシートプリンターを設置し業務の簡素化を図った。また、インターネットによる図書予約システムの更新を行った結果、インターネット予約数が前年度に比べ約5.2%増加した。

③、⑤、⑥、⑨については継続的な取り組みで、④については新たに図書館deキャンプの実施や小中学校図書委員のおすすめ本展示とリストを配布し、子ども読書活動の啓発、推進を図った。

⑦についてはタブレット端末を利用した郷土資料のデジタル化、有料データベース（官報、現行法規、判例集等）の導入を行った。

⑧については朗読ボランティア研修会を新たに実施した。

### 評価結果

	評価項目									合計	平均	最終評価
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
自己評価	4	4	3	4	3	3	4	4	3	32	3.56	4
教育委員 評価	4	4	3	4	3	3	4	4	3	32	3.56	4

## 評価（3） 新たな図書館利用者の開拓

- 目 標 ① 機関紙等の発行やホームページの活用に努め広報活動を充実  
 ② 各種行事の実施による読書の普及と図書館利用者の拡大  
 ③ 図書コーナー、移動図書館車のPRに努め利用者の拡大

自己点検結果 ①についてはシステム更新時にホームページのリニューアルを行い図書館からの情報発信の充実を図った。  
 ②については継続的な取り組みであり、③については図書コーナーの周知と各種事業を行った結果、沼ノ端、住吉、豊川の3つの図書コーナーの利用が、それぞれ前年費約3.0%、約7.8%、約2.4%増加した。  
 さらに、平成24年度に新たに移動図書館車が寄贈されたことに伴い、市内保育園への巡回を開始し、移動図書館ステーションでの大型絵本と読み聞かせ用品の取り扱いを行った。

### 評価結果

	評価項目			合計	平均	最終評価
	①	②	③			
自己評価	4	3	4	11	3.67	4
教育委員評価	4	3	4	11	3.67	4

## 評価（４） 効率的な運営

- 目 標
- ① 市民と協働した作品展示や行事を拡充し市民参加を推進
  - ② 読書活動と文芸サークルへの会場提供等の協力、支援
  - ③ 図書館利用者やボランティア、図書館協議会の意見の反映
  - ④ 学校教育との連携、協力
  - ⑤ 幼児教育との連携、協力
  - ⑥ 学校図書館との交流と運営への協力
  - ⑦ 就労訓練研修の支援
  - ⑧ 管理運営の合理化と予算の効率的運用

自己点検結果 ②、③、⑤、⑥、⑦、⑧については継続的な取り組みで、①についてはピーすぷろじえくと苦小牧作成紙芝居の「苦小牧にも空襲があった」の原画展示と紙芝居公演を初めて実施した。

④のスクールメール便「ブックちゃん」では、平成23年度10月から実施した学校用貸出セットが順調に利用されている。

### 評価結果

	評価項目								合計	平均	最終評価
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
自己評価	4	3	3	4	3	3	3	3	26	3.25	3
教育委員 評価	4	3	3	4	3	3	3	3	26	3.25	3

## 評価(5) 人口当たりの職員配置

- 指標 ① 専任職員の配置（職員1人当たりの奉仕人口。人口15万人以上20万人未満の図書館平均との比較）  
 ② 司書の配置（同上）  
 ③ 全ての職員の配置（同上）

点検結果 ①の専任職員は、人口15万人以上20万人未満の図書館48館※1の職員1人当たりの奉仕人口※2は約9,990人、当館※3は約11,600人となっている。

②の司書※4については同様に平均が約19,390人、当館は約24,860人となっている。

③の全ての職員の配置は、専任職員及び非常勤職員、臨時職員のTOTALであるが、平均※5が約4,380人、当館※6が約6,440人となっている。

専任職員、司書、全ての職員、いずれも平均に満たない状況となっている。

なお、司書の配置基準については特に定めはない。

### 評価結果

	評価項目			合計	平均	最終評価
	①	②	③			
評価ランク	2	1	1	4	1.33	1

※1 人口15万人以上20万人未満の図書館数=48館（2011.3.31現在）。

※2 職員数1人当たりの奉仕人口は、48館合計奉仕人口8,320千人を48館専任職員数の合計833人で除した。

※3 苫小牧市は、奉仕人口174千人を専任職員15人で除した。

※4 司書の48館合計は429人、苫小牧市は7人で、それぞれの奉仕人口を司書数で除した。

※5 職員数1人当たりの奉仕人口は、48館合計奉仕人口8,320千人を48館全ての職員数の合計1,898人で除した。

※6 苫小牧市は、奉仕人口174千人を全ての職員数27人で除した。

※ 職員数はいずれも2012.4.1現在。奉仕人口は2011.4.1現在。

※ 奉仕人口とは、図書館がカバーするその地域の人口のこと。



## 評価(6) 蔵書数及び貸出数

- 指標 ① 蔵書冊数（奉仕人口1人当たり。人口15万人以上20万人未満の図書館平均との比較）
- ② うち開架図書（同上）
- ③ 受入図書冊数（人口15万人以上20万人未満の図書館平均との比較）
- ④ 貸出数（奉仕人口1人当たり。人口15万人以上20万人未満の図書館平均との比較）

点検結果 ①の蔵書冊数については、人口15万人以上20万人未満の図書館48館の奉仕人口1人当たりの蔵書平均※1が約3.2、当館※2は約2.8となっており、②の開架図書※3は、同様に平均が1.75、当館は※41.80となっている。

蔵書冊数については平均には達していないが、開架図書については平均を上回っている。

③の寄贈及び購入も含めた受入図書冊数※5は、48館平均が約24,750冊、当館が約20,100冊となっているが、そのうち寄贈が前者は約12.6※6%、当館は32.8※7%となっており、当館は多くの市民や事業所・団体から寄贈があるため、割合が高い状況になっている。

④の貸出数※8は平均で約6.3冊、当館※9は約5.1冊となっている。

### 評価結果

	評価項目				合計	平均	最終評価
	①	②	③	④			
評価ランク	2	3	2	2	9	2.25	2

※1 蔵書冊数の平均は、48館合計26,394千冊を48館合計奉仕人口8,320千人で除した。

※2 苫小牧市は、蔵書冊数492千冊を奉仕人口174千人で除した。

※3 開架図書の平均は、48館合計14,534千冊を48館合計奉仕人口8,320千人で除した。

- ※4 苫小牧市は、開架図書314千冊を奉仕人口174千人で除した。
- ※5 平均受入冊数は、48館合計1,188,169冊を48館で除した。
- ※6 平均寄贈割合は、48館の受入冊数が1,188,169冊、うち購入冊数が1,038,285冊、寄贈が149,884冊。
- ※7 苫小牧市は、受入冊数20,142冊、うち購入が13,545冊、寄贈が6,597冊。
- ※8 貸出数平均は、48館合計が52,367千点で、これを48館合計の奉仕人口8,320千人で除した。
- ※9 苫小牧市は、貸出数884千点を奉仕人口174千人で除した。
- ※ 蔵書及び開架冊数は2012.3.31現在、受入冊数、個人登録者数、貸出数は2011年実績。奉仕人口は2011.4.1現在。

## 評価（7） 人口当たりの経費

- 指標 ① 図書館費（奉仕人口1人当たり、人口15万人以上20万人未満の図書館平均との比較）  
 ② 図書購入費（同上）

点検結果 ①の図書館費※1については、人口15万人以上20万人未満の図書館48館の奉仕人口1人当たりの平均が1,058.9円、当館※2が509.3円となっている。  
 ②の図書購入費※3については、同様に平均が231.0円、当館※4は103.4円となっている。ただし、評価（6）でも説明したように、当館は多くの市民や事業所・団体から多くの寄贈があるため、このような状況となっている。

### 評価結果

	評価項目		合計	平均	最終評価
	①	②			
評価ランク	1	1	2	1	1

- ※1 図書館費の平均は、48館合計8,809,659千円を48館の奉仕人口合計8,320千人で除した。  
 ※2 苫小牧市の図書館費は88,623千円で、これを奉仕人口174千人で除した。  
 ※3 図書購入費の平均は、48館合計1,922,097千円を48館の奉仕人口合計8,320千人で除した。  
 ※4 苫小牧市の図書購入費は18,000千円で、これを奉仕人口174千人で除した。  
 ※ 図書館費及び図書購入費は2012当初予算額。ただし、図書館費は人件費（非常勤、臨時を含む）及び臨時的経費は含まない。奉仕人口は2011.4.1現在。

※参考：経営状況（道内主な都市）

	人口（人）	図書館費（千円）	図書購入費（千円）
旭川市	352,000	255,431	61,970
函館市	280,000	284,476	31,347
釧路市	184,000	128,325	21,100
帯広市	169,000	193,731	33,442
苫小牧市	174,000	88,623	18,000

※ 図書館費及び図書購入費は2012当初予算額。ただし、図書館費は人件費（非常勤、臨時は含む）及び臨時的経費は含まない。奉仕人口は2011.4.1現在。

## 5 自己評価のまとめ

平成24年度苫小牧市立中央図書館運営方針の各事業、さらに運営状況等を振り返り、評価基準を基に点検・評価を実施した。

評価項目(1)から(4)の大きな改善点として、地元企業からの寄贈資料及びその他郷土資料のデジタル化を行い貴重な資料の保存を行った。また、新たに移動図書館車が寄贈されたことに伴い、それまで行っていなかった市内保育園への巡回を開始した。さらに、館内表示の工夫やホームページをリニューアルするなど、利用者のサービス向上を図った。

図書館ボランティアについては、読み聞かせ、ストーリーテリング、フロアワーク、本の修理を行ってもらい、平成24年度は初めて朗読ボランティアの研修会も実施した。図書館の効率的な運営を行っていくためには、こうしたボランティア活動が必要で、今後もボランティアの育成、研修等を行っていきたいと考えている。

評価項目(5)から(7)については、職員数は、専任、司書、全ての職員の全項目で全国平均を下回っており、少ない職員で図書館業務を運営しサービスの維持に努めている。

開架図書については全国平均を上回っているが、蔵書冊数等、その他の項目では全国平均を下回っている。ただし、苫小牧市立中央図書館では、図書館のホームページアクセス数がここ数年増加しており、サービス向上のため新たに実施した事業や毎年度継続的に実施している事業等の中で利用者の視点に立って工夫・改善を行ったものがあり、さらに平成23年度から月曜日の振替休日の開館を変更※1するなど、利用者の利便性向上を図ったことが要因の一つであると考えている。

経費では、図書館費及び図書購入費ともに全国平均を大幅に下回っており、全国平均よりも寄贈図書の割合が多いという特徴もあるが、少ない予算の中で利用者のため蔵書整備を行っている。ただし、今後は市民サービスの向上実現のためには少ない予算では限界があり、経費の見直しが必要になってくるのではないかと考えている。

最後に、平成23年度に実施した市民アンケートの要望では、①蔵書整備の充実、②開館日・時間の拡充、③サービスの拡充が求められている。今回実施した自己点検及び評価を踏まえ、さらなる業務の改善及び効率化並びに市民サービスの向上に取り組み、市民要望実現のため取り組んでいきたいと考えている。

※1 平成22年度までは、日曜日が祝日だった場合は翌日の振替休日を休館としていたが、平成23年度からは開館とした。

## 6 教育委員による評価（平成24年度図書館運営の点検・評価への意見）

平成25年4月18日  
苫小牧市教育委員

### 総合評価

図書館法第7条の3では、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないと規定されている。苫小牧市立中央図書館では、毎年運営方針が策定されていたが、それに対する体系的な検証がされておらず、今回が初めての図書館運営の点検・評価であった。

評価（1）の図書館資料の充実では、貴重な郷土資料のデジタル化で資料の保存を行い、さらに、新たにカセットテープ資料のデジタイズ化や郷土資料の音訳、点訳資料の作成を行い視覚障がいサービスの充実化を図ったことは評価できる。

評価（2）の図書館利用者へのサービス向上は、図書館利用者にとって最も身近な項目であるが、初めて来館した利用者にもわかりやすい表示を行うことは利用者サービスにとって重要である。これを改善したことは評価できるが、改善すべきところがあれば利用者などの声を聞き、速やかに改善していただきたい。

本の予約については、インターネットの普及により実際に来館せずに予約できるシステムは多くの図書館で導入されているが、誰でも簡単にわかりやすくできることで、さらに多くの利用が望め、それがサービスの向上につながる。インターネット普及による利用者増という要因もあると思うが、システム更新によりその利便性を向上させたことが利用者増につながったというのも一つの要因であると思う。

新たに図書館deキャンプの実施や小中学校図書委員のおすすめ本展示とリストを配布し子ども読書活動の啓発、推進を行ったことは評価でき、引き続き行っていただきたい。

図書館を運営する上で欠かすことができないボランティアについては、依頼できる範囲は限られていると思うが、ボランティアの活動の範囲が広がれば、さらなる効率的な図書館運営が期待できることから、業務を見直すなどしてボランティア活動の範囲を拡大し、さらに引き続き研修等を実施し図書館運営に協力依頼していただきたい。

評価（3）の新たな図書館利用者の開拓では、市内6箇所図書館の図書コーナーの

うち3箇所の図書コーナーで利用者が増加しているが、他の場所も含め、さらなる利用者拡大に向け市民周知、事業展開をしていただきたい。移動図書館車は新たに市内保育園の巡回も行うようになったが、図書コーナー同様にさらなるPR等に努め、利用者拡大に努めていただきたい。

評価(4) 効率的な運営では、市民との協働や学校等との連携、協力が必要であり、また市民や各団体等からの図書館に対しての要望も数多くあると思うが、実現可能なものについては対応していただきたい。また、スクールメール便「ブックちゃん」は、市内の小学校を対象にした読書活動支援としても重要であるので、さらに利用が増えるよう学校との連携を図っていただきたい。

職員数については、その館の規模や蔵書数等で大きく変化し、効率的な運営を行っていることで職員数が少ない場合もあるとは思いますが、苫小牧市立中央図書館の場合は奉仕人口1人当たりの専任、司書、全ての職員数が全国平均よりも少ない状況である。他館と同様にボランティアの協力により本来であれば職員が行う業務を一部任せるなどの工夫・改善でサービスの提供を維持しているのが現状であると思うが、今後はサービスの向上、職員の負担軽減という観点からも職員数の見直しが必要になってくるのではないかと。

蔵書数についても平均よりも下回っているが、開架図書が平均よりも多く、利用者にとって直接目に触れることができる状況になっている。予算の問題もあると思うが、蔵書の充実が市民サービスにも直結し、さらに利用者が増える要因にもなると思われるので、さらに蔵書整備を充実していただきたい。

経費の図書館費及びその内数である図書購入費も平均を大きく下回っている。苫小牧市の特徴としては寄贈図書の割合が多いという状況もあるが、今後様々な市民ニーズに添えていくためには、限られた予算ではあるが、図書館費及び図書購入費の見直しも必要になってくるのではないかと。

以上が総合評価であるが、図書館を利用するのは市民が中心であり、市民からの要望である①蔵書整備の充実、②開館日・時間の拡充、③サービスの拡充については、今回の図書館運営の点検及び評価を踏まえ、さらなる業務の改善及び効率化を図り実現していただくことを要望いたします。